

特集

新宿 ワンダフルワールド

発見! 新宿で出会う

和



1920(大正9)年の創業以来、さまざまな染物を手掛けてきた工房。職人が作品を仕上げている様子は、見ている方も思わず息を呑む繊細さです。同じ工房内で、体験することができます。(要予約)



図案の作成から染色まで一貫して自社で行っています



着物や帯のほか着物の反物を使った染色雑貨なども販売

和を体験する

二葉苑

落合エリア
新宿区上落合2-3-6
☎03-3368-8133
🕒11:00~17:00
📅日・月 →P.18 B-3

江戸染色の技法を受け継ぎ、伝統を守りながら新しい取り組みにも挑戦し続ける染色工房。訪れる方々に江戸染色に触れる機会を提供するほか、着物の反物を利用し、日本だけではなく海外にも目を向けた商品を展開しています。

がま口(小) 1,620円

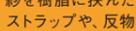


小粋な染色雑貨は、プレゼントにも

ストラップ 432円



ペンダント(小) 1,080円



江戸小紋や江戸更紗を樹脂に挟んだストラップや、反物の生地をそのまま生かしたがま口など、染物の新たな表現をかたちにした雑貨が多数

大都会が広がる新宿区は、実はたくさんの和の魅力があふれています。江戸時代からの伝統工芸や、おいしい和菓子や和食、お茶文化が、脈々と受け継がれているのです。俳優の草刈正雄さんと、新宿区の和を訪ねました。

新宿区で和って意外だな~



東京染ものがたり博物館

高田馬場・早稲田・大久保エリア
新宿区西早稲田3-6-14
☎03-3987-0701 FAX 03-3980-2519
🕒10:00~12:00 13:00~16:00
📅土・日・祝(臨時休館あり) →P.16 C-1



丸ハケなどの道具や、扉や天井といった工房そのものが歴史を感じさせます

和を体験する

織密に彫られた小紋の型紙は、見入ってしまうほど。新宿の地場産業のひとつである江戸の技を受け継ぐ富田染工芸の5代目富田篤さん(写真左上)は、新宿ものづくりマスター・技の名匠の第1号認定者です。

和を味わう

神楽坂 梅花亭

神楽坂エリア
新宿区神楽坂6-15
☎03-5228-0727
🕒10:00~20:00
📅不定休 →P.14 B-2

今年創業80周年を迎えた、神楽坂の和菓子店。店内にはさまざまな和菓子が並び、選ぶ楽しみをかき立てます。体に優しい和菓子を追求し、国産の素材を無添加で仕上げることにこだわっています。定番銘菓も季節の生菓子も一つひとつが繊細なおいさと評判です。

- ・鮎の天ぷら最中 1個 240円
- ・浮き雲 1個 230円
- ・神楽坂石畳 1個 210円



軽やかで上品な銘菓です

京都宇治産の抹茶をふんだんに使用したオリジナル抹茶洋菓子。抹茶の鮮やかな色と優しいほろ苦さ、ほど良い甘さは専門店ならではの



抹茶洋菓子詰合せ 2,376円

茶道の心得である「和敬の心」を説くべく、戦前に高田馬場に創業したお茶の専門店。全国から選りすぐりの日本茶を取り揃え、百貨店などで販売するほか、航空機でのサービスや宮内庁でも愛飲されています。また、新しい日本茶の楽しみ方としてお茶のスイーツも展開しています。



- ・「あいこく」 100g 540円
- ・「青山」 100g 648円
- ・「楽天」 100g 1,080円

お土産でかぐわしいテイータイム

愛国製茶

高田馬場・早稲田・大久保エリア
新宿区高田馬場4-12-7
☎03-3363-6611
🕒10:30~18:00
📅日・祝・第1、第3土 →P.16 A-1



和を味わう

小紋チーフ 5,184円

ストラップ 1,080円

普段使いたくはない新宿の和を、お土産に

型紙しおり 324円



ストラップ 1,080円

小紋チーフ 5,184円

普段使いたくはない新宿の和を、お土産に

型紙しおり 324円



体験で染めた作品は後日小裂か襷紗に仕上げてもらえます。写真は草刈さんが染めた生地の襷紗型付け体験(2,000円~)



Masao Kusakari 草刈正雄さん

1970年、資生堂初の男性化粧品ブランドの広告でモデルデビュー。その後俳優として、ドラマ、映画、舞台など数々の作品に出演。2012年、2014年には舞台「日本の面影」で、新宿区と縁のある作家小泉八雲を好演した。現在、美術評論番組「美の壺」(NHK)に出演中。

和の庭園を歩く

甘泉園公園

高田馬場・早稲田・大久保エリア
新宿区西早稲田3-5
☎03-5273-3914
(新宿区 みどり土木部-みどり公園課 公園管理係)
③3~10月 7:00~19:00
11~2月 7:00~17:00
④無休 →P.16 C-1

元は徳川御三卿の清水家の屋敷であった回遊式庭園。池の周りの木々や季節の花が、都会に在ることを忘れさせます。池に湧く水がお茶に適していたことから、「甘泉園」の名が付いたそうです。つぼみが花を開く春、新緑の葉が茂る夏、季節の訪れを感じながらゆっくり歩いてみましょう。



「甘泉園」の名が付いたそうです。つぼみが花を開く春、新緑の葉が茂る夏、季節の訪れを感じながらゆっくり歩いてみましょう。

和の芸を見る

神楽坂をどり

神楽坂エリア
☎03-3260-3291
(東京神楽坂組合)
→P.14 B-2

神楽坂の芸妓が、芸事を披露する公演会。芸妓の美しい舞や唄を楽しむことができる、貴重な機会です。ぜひご覧ください。

- 日にち: 4月4日(土)
- 会場: 神楽坂劇場 (牛込笹笠区民ホール) 新宿区笹笠町15
- チケット: 4,000円 (全席指定)

前売券の購入、お問い合わせ

東京神楽坂組合 (見番) 事務所
☎03-3260-3291
(10:00~18:00受付、土・日・祝休み)

神楽坂をどりは新宿区の地域文化財に認定されています



新宿区は、江戸時代の和の文化がいまだに息つき、そして新しいものを生み出し続ける、東京のカルチャーをけん引する街です。ぜひ、さまざまな場所に立ち寄っていただき、新宿区を楽しんでいただければと思います。

1969(昭和44)年から、区立公園唯一の回遊式庭園として人々に親しまれています

新宿区には
いろんな表情が
あるんだねえ



茶道具や和の小物なども種類豊富に取り扱っています

和のいい雰囲気、好きです

和を体験する

益田屋

高田馬場・早稲田・大久保エリア
新宿区百人町2-17-11 ☎03-3362-3281
③11:00~18:00
④水 ※毎月、最終の水曜日は営業
→P.16 A-3

全国各地で選り抜いた茶道具を販売する、創業85年のお店。2つの茶室を完備し、さまざまな茶事を開催しています。和のコンシェルジュが出張し、イベントのお手伝いもします。椅子に座って抹茶をいただける立礼席も行われ、初心者の方も気軽に茶道を体験できます。また、ギャラリーでは、月ごとの入れ替えで一流の茶道具の展示を見ることができます。



茶道教室では、本格的に茶道の作法を学ぶこともできます



特選点心 5,400円(税込)

新宿 ワンダフルワールド 発見! 新宿で出会う



天然のいわしを丁寧に仕込んだ一品。リーズナブルなランチといえど、プロの技を惜しみなく駆使した絶品料理です

和を味わう

新宿割烹 中嶋

新宿エリア
新宿区新宿3-32-5 日原ビルB1 ☎03-3356-4534
③ランチ 11:30~14:00 デイナー 17:30~22:00
④日・祝 →P.10 D-3

関西割烹を基本に、革新的な工夫を料理に施す割烹。現店主・中嶋貞治さんの祖父は、北大路魯山人が主宰した茶寮の初代料理長を務めた方。現店主は、魯山人創案の料理を継承しながらも、積極的に新しいアプローチや技の普及に取り組んでいます。ランチはいわし料理のみで、驚くほどリーズナブル。



食材の目利き、味、盛り付けのバランスの全てにおいて日本料理の伝統を重んじながら、新しい感性も取り入れています

和を味わう

車屋本店

新宿エリア
新宿区歌舞伎町2-37-1 ☎03-3232-0301
http://www.kuruma-ya.co.jp
③ランチ 11:30~14:30
ディナー 平日 17:00~21:00(L.O.)
土 14:30~21:00(L.O.)
日・祝 14:30~20:30(L.O.)
④12月31日,1月1日 →P.10 C-2

季節の移り変わりを味わい深く、美しく表現する日本料理店。代々受け継いだ技と心で手掛けた伝統の日本料理は、大切な方との会食に最適です。大小の個室があるほか、1階の椅子席では手軽にランチセットを、地階では車屋流にアレンジしたフランス料理を堪能できます。



末廣亭

新宿エリア
新宿区新宿3-6-12 ☎03-3351-2974
③昼の部 12:00~16:30
夜の部 17:00~21:00
④12月30日~31日 →P.10 D-3

東京に残る4軒の落語定席のひとつが、新宿3丁目に。都内で唯一の木造建築の定席で、江戸時代に人々が熱中した寄席の風情を現在に伝えます。落語を中心に、漫才、曲芸といった各種演芸が、終始観客を沸かせます。



和の芸を見る

新宿区に息づく
江戸の芸術に出会えました

体験して初めて分かる
和の魅力

染物の制作現場を見たのは、今回訪れた東京染ものがたり博物館が初めて。新宿区に江戸時代の染色技法が残っていることに大変驚きました。

自分の目で制作過程を見て、職人の方にお話を聞くと、日本人が培ってきた技術の高さに改めて感じます。また、日本のものづくりについて、まだまだ知らないことが多いのにも気がきました。

工房では昔のままの技術を伝えるだけではなく、現代的な作品づくりにも挑戦していらっしゃいます。このスカーフは、江戸染色です。

新宿といえは
70年代の歩行者天国

俳優としての私の原点は、新宿区にあります。当時四谷にあった制作プロダクションでカメラテストを受けたことが、モデルデビューのきっかけとなりました。

また新宿といえは歩行者天国です。1970年代の新宿は、今よりもっと人でごった返っていて、人々の雑多なエネルギーがうずまきようでした。そんななかで、歩いたり、ちょっと芝居をつけたりしながら撮影して、本当に大変でした。歩行者天国での撮影回数は、俳優のなかで私が一番多いんじゃないかな。